

タイトル:平成 28(2016)年度 教育セミナー(第 12 回)

日時:2016 年 9 月 18 日(日)~21 日(水)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディア会議室(304)

「18 世紀イスタンブルにおける商人集団の変化 ― 黒海交易を中心に」

伊藤 瞳 (大阪市立大学大学院文学研究科)

9 月 18 日から 21 日にかけて 4 日間開催された教育セミナーの中で、2 日目に発表をする機会を頂き、修士論文を基に 40 分間の研究発表を行いました。今回は教育セミナーへ初めての参加であったことに加え、自分が所属する学校以外での研究発表もまた初めてであったため、自分の発表が終わるまでとても緊張しました。

発表の内容は、今年の 1 月に提出した修士論文を基にしていた分、比較的容易にまとめることができました。とはいえ、春から準備を初め、配布資料や発表原稿を完成させるまでにはかなりの時間を要し、開催日の直前になってようやく完成に至りました。準備に時間をかけた甲斐あって、発表後には他の受講生や先生方から好意的なご意見を賜ることができました。なかでも、高松先生には使用した史料の訳までをも詳しくご指導して頂き、大変勉強になっただけでなく、今後の研究に向けて大きな励みになりました。これまでに指導教員以外から指導を受ける機会はほとんどなかったため、今回多くの方々からご意見やご質問を頂いたことで、視野が広がったように思います。

また、他の受講生発表は全員が修士課程の学生であったため、昨年の自分自身の進捗具合を思い出しながら発表を聞いていました。昨年の自分自身の様子に比べ、どの発表者も着実に研究を進めている様子が伝わり、感心するとともに少し焦りをも感じました。というのも、修士論文を提出して以来、研究を怠りがちであったため、自身の態度を反省し、研究に対する姿勢を見直すのに良い刺激を頂きました。

受講生発表も大変興味深くはありましたが、やはり先生方のご講義はとても勉強になりました。私は自校では東洋史に所属しており、普段は歴史の授業が中心で、現代の研究には疎く、また、ご講義の大半が私の専門とは異なる分野であったため、どのお話も新鮮に感じられ大変興味深く拝聴いたしました。

今回、私がセミナーへ参加するに至った理由には、現在の研究ならびに今後の方向性に関して先生方から良いご指導を頂きたいという思いがありました。その思いに対しては、分野を問わず、多くの先生方からセミナーの時間を超えてまでご意見やご指導をいただき、有意義な時間を過ごすことができました。しかし、実際にセミナーに参加して良かったと思う点は、やはり様々な分野の方々と交流できたという点に尽きるでしょう。つい、自らの研究分野に引きこもりがちな私にとって、他分野への興味や関心を抱きつつ、人間関係を築くためのよい機会となりました。最後になりますが、このような貴重な機会を与えていただきました先生やスタッフ並びに関係者の皆様には心より御礼を申し上げます。